

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第4回 東村山市地域公共交通あり方検討会				
開催日時	令和4年3月9日(水) 午後4時00分～5時00分				
開催場所	いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出席者 及び欠席者	●出席者:(委員) 大沢昌玄会長・小嶋文委員・金田一弘明委員・ 高橋照定委員・越智あや委員 (事務局) 渡部市長・山下まちづくり部長(都市計画担当)・屋代 まちづくり部次長・島崎交通課長・小宮山係長・香西主任・會田事 務員・八千代エンジニアリング(株) 2名 ●欠席者: なし				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場 合はその理由		傍聴者数	5名
会議次第	1. 開会 (1) 会長挨拶 (2) 市長挨拶 2. 議題 (1) 新たな移動手段の検討について 3. 報告 4. 閉会				
問い合わせ先	まちづくり部 交通課 交通企画係 電話番号 042-393-5111 (内線) 3707 FAX番号 042-393-6846				
会 議 経 過					
1. 開会 資料の確認 ○令和3年度 第4回「東村山市地域公共交通あり方検討会」次第 ○資料1 東村山市における新たな移動手段確保の方向性について 出席状況の確認。東村山市地域公共交通あり方検討会設置規則第6条第2項によ り、本会議は成立していることを報告(5名中5名の出席)。 事務局が開会を宣言。					

(1) 会長挨拶

・皆さんこんにちは。今日は最後の地域公共交通あり方検討会でございますので、事務局でまとめていただいた案をご報告いただきながら、最後の取りまとめとしたいと思っておりますので、皆さん引き続きよろしくお願いいたします。

(2) 市長挨拶

・皆さんこんにちは。年度末を迎えて皆さんお忙しいところ、今年度最後になります東村山市地域公共交通あり方検討会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。まん延防止重点措置が出されている最中ではございますが、提言書の取りまとめがございましたので、本日お集りをいただいた次第でございます。2年間に亘りまして、当市のグリーンバスを運行できない地域等につきまして、どのように公共交通を充実させていくかの様々な意見をいただきました。市民の皆さんにアンケート形式での調査、現在グリーンバスをご利用いただいている方の利用実態調査もさせていただいてまいりました。本日はそこから導き出される市民の皆さんのニーズ、それからあり方検討会の委員の皆さんからご指導いただいたことを、事務局で取りまとめ、提言とさせていただいた次第でございます。本日ご議論いただいて、できましたら一定の提言をいただければ、来年度以降につきましては、いただいた案に基づいて行政としてもう一度、今後の公共交通のあり方について整理をさせていただき、今後は設置機関であります地域公共交通会議で、具体的な公共交通の運行等について議論をさせていただいて、できましたら令和5年度には何らかの形で実験運行等ができればとそう考えております。本日は皆さんにご協議いただきながら、取りまとめいただきますようよろしくお願いいたします。挨拶に代えさせていただきます。

《会長》

傍聴希望者の確認。

傍聴希望者：5名

傍聴希望者の入室許可について、委員に確認後、傍聴者5名入室。

2. 議題

(1) 新たな移動手段の検討について

《事務局》

・今まで、ご議論いただいた内容の最後のまとめとなる。
・資料1の表紙の資料構成にある、1. 検討の背景、2. 現在のサービス・ニーズ、3. 今後の可能性の3. 1調査結果のまとめまでを、前回までの検討会で説明をさせていただいていたので、3. 2新たな移動手段の導入に向けた提言の40ページから説明させていただきたい。

(資料40ページについて)

・新たな移動手段の導入に向けた提言について。1) 新たな移動手段の必要性について、グリーンバスの利用状況調査から多様な目的で利用がされており、市民アン

ケートの各移動でも、路線バス等の利用がされている。また、現在の移動に不満があると回答していない方は、約75%となっていることから、多くの市民が現在の移動に不満を感じていないことがわかった。一方で、検討地域を中心に、現在の移動に不満がある方が一定数見られ、60歳以上の方を中心に将来の移動に不安を感じている方も見られた。

- ・今後少子高齢化が進む見込みの中、高齢者や子育て世代の方から公共交通の利用が困難であるとのご意見をいただいている。

- ・これらを踏まえ、すべての方が快適に移動できる環境の整備の一環として、新たな移動手段の導入を含めた移動環境の整備が必要と考えている。具体的には、短期的な取組として「新たな移動手段の導入」「モビリティマネジメント」、中長期的な取組として「近隣市との連携」「地域公共交通の利用環境の向上」、技術進展に応じて「自動運転やMaaS等の活用」を挙げている。

(資料4 1 ページについて)

- ・市民アンケートの結果から、買い物の5割を中心に、自家用車での移動割合が高くなっている。昨今の社会情勢を踏まえると、環境面への影響や免許証の返納など過度に自家用車に頼らない移動環境が求められている。については、検討地域において、過度な自家用車利用に頼らない、多様な移動手段を選択できる環境整備を行うため、新たな移動手段が必要であると考えている。

(資料4 2 ページについて)

- ・新たな移動手段の考え方について、地域や目的地など、項目別にまとめている。
- ・新たな移動手段の地域については、新たな移動手段の利用意向と現在の移動に対する不満が高い地域を優先に検討することが望ましいと考えている。先ほどご説明した、市民アンケートの結果から、検討地域内において、新たな移動手段の利用意向が高い地域や、現在の移動に対する不満が高い地域がそれぞれ存在しており、それらを考慮しながら、優先順位を決めることが望ましいという考えに至った。

- ・新たな移動手段の目的地については、それぞれの地域から、市の中心核へ接続することが望ましいと考えている。

- ・現在のサービスや市民アンケート結果から、新たな移動手段の利用について、鉄道駅を目的地とする比率が高く、現在の移動実態とも合致していることに加え、市のまちづくりの観点からも中心核に定める駅周辺に都市機能を集約し、賑わいを創出する点についても合致することからこの設定に至った。

- ・地域からこれらの鉄道駅に向かう経路上にある買い物先や通院先を経由することでニーズや移動実態とも、より合致してくると考えている。

(資料4 3 ページについて)

- ・新たな移動手段の対象者については、利用意向や免許の保有状況などを踏まえたサービス内容とすることが望ましいと考えている。

- ・公共交通として、誰もが利用できることを前提に、アンケートでも幅広い年齢層の方から利用意向が確認できている。その中でも、免許を持たない方や将来の移動に不安を感じている方は60歳以上の方の割合が多くなっているため、これらの状況を踏まえたサービス内容とすることが望ましいと考えている。

- ・新たな移動手段の時間帯については、多くのニーズが重なる時間帯を優先することが望ましいと考えている。

- ・アンケート調査より移動の目的別に幅広い時間帯で移動のニーズが存在していることが確認できたので、それぞれの移動時間を比較しながら、より多くのニーズが重なる時間帯を中心に利用時間帯を検討することが望ましいと考えている。

(資料4 4 ページについて)

- ・新たな移動手段の事業継続性の確保については、グリーンバスの収支率のように、運行における目標を設定し、事業の継続性を持たせることが必要である。
- ・少子高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響によりグリーンバスの利用者が減少しており、補助金額も8,000万円を超える状況になるなど、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増している。
- ・既存施策であるグリーンバスとのバランスを図る必要もあることから、運行の継続基準である目標値を設定する必要がある。
- ・新たな移動手段の担い手については、市民のニーズ（需要）と車両や運転手（供給）のバランスを図ることが必要である。
- ・この検討会でも委員から、ニーズがあっても本当に運行事業者はやれるのかといったご意見をいただき、運行事業者として可能性がある送迎車両を有する事業者やタクシー事業者に対して、調査やヒアリングを実施した。その結果、送迎車両を有する事業者は、困難との回答を、タクシー事業者からは、協力はできるが朝の時間帯は対応が困難との回答をいただいている。
- ・利用者ニーズがあっても運転手がいなければ運行ができない可能性もあるので、運行事業者と運行内容を調整する必要があると考えている。
- ・これらの内容を踏まえ、次年度の地域公共交通会議で新たな移動手段の具体的な運行内容を決定するため、協議を進めていく予定である。
- ・新たな移動手段の検討と並行して進めるべき施策として、モビリティマネジメントを挙げている。委員からバス停がどこにあるのかわからない方や路線図がわかりづらいお母さんがいるとのご意見があったので、公共交通マップの更なる周知に加え、委員がおっしゃっていた行動プラン法といった、市民が具体的に公共交通を利用するイメージをしてもらうなどの取組が必要になると考えている。
(資料4 5 ページについて)
- ・新たな移動手段として想定される運行方法を7案示している。
- ・この会議ではどの運行方法が望ましいといった決定はしないが、想定される運行方法や対象者、当市のニーズと合致するかなど、項目ごとにまとめている。次年度の協議においては、これらも参考にしながら検討を進めていければと考えている。
(資料4 6 ページについて)
- ・新たな移動手段とは別に、中長期的な取組として進めるべき施策についてである。
- ・一つ目の施策としては、近隣市との連携の強化についてである。生活実態としては隣接する市の鉄道駅を利用する方も多くいるとのご意見を委員からいただき、また市民アンケートでも、買い物や通院などで、近隣市に向かう移動が確認できている。
- ・新たな移動手段としては、まず市内での移動を中心に検討させていただいているが、近隣市との連携については、東京都が中心となって、現在取組が行われているところである。東京都では、東京における地域公共交通の基本方針として、利用者視点の行政界を感じさせない地域公共交通ネットワークを構築するとしており、現在当市も会議に参加しながら関係自治体と協議を進めているので、引き続き、東京都や近隣自治体との協議を進めることが必要と考えている。
- ・二つ目の施策としては、地域公共交通の利用環境の充実についてである。市民アンケートやこの検討会でもご意見があったが、バス停の屋根やベンチなど利用環境へのご意見をいただいている。歩道の有効幅員等の関係から、これらの整備は困難であることから、公園や民間の施設などの活用や、逆に待ち時間をなるべく少なくするため遅延情報をリアルタイムで提供することなどを検討する必要があると考えている。

・市内での移動を中心に、その多くが徒歩・自転車となっている現状から、歩行や自転車の走行環境整備を求めるとご意見をいただいているので、都市計画道路整備と併せた環境の整備が望まれる。

(資料47ページについて)

- ・技術進展に応じた施策として、今後の技術進展への対応について。
- ・自動運転や多様な小型モビリティなどが徐々に開発されており、今後、これらの技術が活用できる環境が整った場合は、必要に応じて検討することが望ましいと考えている。
- ・公共交通を一つのサービスとして提供する MaaS といったサービスも浸透しつつあるので、これらのサービスについても、必要に応じて検討をすることが望ましいと考えている。

以上が、提言内容の説明となる。

《会長》

- ・資料1の39ページまでは市民のアンケート調査内容、調査結果のまとめであり、それを踏まえて40～47ページは提言とまとめが示されている。
- ・本日は皆さんから新たな移動手段の導入に向けた提言につきまして、ご議論、ご意見をいただきたい。
- ・提言の内容で、ご意見、ご質問、ご不明な点はあるか。

《委員》

・資料1の44ページの⑥新たな移動手段の事業継続性の確保で、「グリーンバスの収支率のように運行における目標を設定し、事業の持続性を果たせる」について伺いたい。目標の設定、事業の持続性を果たせることは、とても重要であると思う。目標を設定した結果、そこに達成しなかったら持続をしないということもありえると思うが、事務局の見解を伺いたい。

《会長》

・「運行における目標を設定し、事業の持続性を果たせる」は具体的にどのような意味であるかという質問内容である。事務局の考え、これに込めた意味はあるか。

《事務局》

・グリーンバスのガイドラインにも収支率40%という運行基準が設けられている。それが達成できなかった場合、運行改善を検討することになっている。そのような目標を定めながら運行の継続を図っていきたいと考えている。

《委員》

・目標を設定して、その結果をフィードバックしながら改善していく、サイクルを回すということが事業の持続性というところの大きな意味ということによろしいか。

《事務局》

・おっしゃる通りである。

《会長》

・42ページの③新たな移動手段の目的地であるが、東村山市の主要な3駅に接続するのが望ましいというところであり、ニーズでもそうであったが、公共交通とい

うより都市計画であると思うが、ここに将来的に色々な施設を設置して、ここにすればコンパクトに食事、買い物、医療施設、遊びを含めてできるというような、3駅には将来的に市として何か力を入れていく、3駅を都市拠点にしていくことがほかの計画でも謳われているのか。

《事務局》

・都市計画マスタープランでも、東村山駅、久米川駅、秋津駅・新秋津駅の周辺を市の中心核と位置付けて都市機能の集約を図っていくことから、これらの中心核に賑わいを作っていくことが市の方針として定められている。

《会長》

・現在、東村山市は立地適正化計画を作っていないので、色々なところに施設立地ができると思うが、今後なるべく3拠点に市の施設を配置できるように、土地利用としても、市の政策としても検討をお願いしたい。

《委員》

・新たな移動手段の目的地は中心核である駅ということで、駅の周辺を今まで以上に設備を整えて、利用意向を高めるということだが、その中に病院があると思うが、病院を駅の周辺に作るというのは現実的には不可能である。現状の病院も駅からかなり離れている、交通に不便な場所にある。

・小さな病院が縮小され大きな病院に頼らざるを得ない中、大きな病院を中心核に取り組むということは現実的ではない気がする。

・病院等、大規模スーパーも駅同様に価値を持って、中心もどきを作っていただきたい。そうでなければ駅はただの通過点になってしまい、単なるターミナルになってしまう。例えばA地点からB地点に行くのに、B地点に直接行けず、駅を経由していかなければならないということになる。駅を経由していければ良いが、交通網は密には作れないと思うので、そのあたりが課題になると思う。

・今後高齢化が高まっていくので、医療機関は無視できない。買い物よりも優先して医療を考えなければいけない。

・中心核を設定するときに、今の病院を移動することは不可能なので、病院を特別な扱いと言っては語弊があるが、駅と準ずるような形で病院を作っていくべきと思う。

《会長》

・現状、駅周辺は既に土地利用がなされていて大規模な空地がなく、駅に新たな大規模な施設立地は厳しい。

・そういった中で交通のあり方、病院に行きたくても行けない人に対応する病院も、核に入れられないかというご提案であった。事務局で何か考えはあるか。

《事務局》

・東村山駅からグリーンバスで、多摩北部医療センター、新山の手病院等には行ける。

・我々も病院は極めて大切だと思っている。42ページの下から2行目にあるように、ご指摘いただいた病院についての考えを前提として持っている。

・先ほど申しあげたように、大きな病院については何らかの移動手段がある。

・東村山駅西口、久米川駅北口には複数の診療所が入っているビルがある。

・病院については、それぞれかかりたい病院や医師との相性もあるという難しい面

があるが、病院、通院は大変重要である意識は持っている。今後も意識を持って進めていきたいと考えている。

《会長》

- ・今年度より組織として交通政策と土地利用の都市計画が同じ部になったので、風通しが良くなったと思う。土地利用としての都市計画と移動手段としての交通は常に情報交換をしていただきたい。
- ・施設立地はどうしても土地が安価な場所が選択されてしまうが、そうは言っても立地が悪いと新たな交通手段という大きなお金がかかる。
- ・施設と交通のどちらかが、10年後になってしまうというようなことが無いように、同じ部の中で風通し良くやっていただければと思う。
- ・42ページの「駅までの経路上にある買い物先や通院先等については経由できるように検討する」は遵守するようにしていただきたい。
- ・新たな施設立地の時には交通と施設計画を必ず一体で考えていただきたい。

《委員》

- ・東村山市に来てから約60年だが、資料を見ると知らないことばかりである。色を使い、非常に分かりやすく、とても貴重な資料である。
- ・東村山市は市内に9つの鉄道駅があることが一番恵まれている。
- ・道路行政が遅れているとのことだが、今後狭い道路を改善していただきたい。
- ・45ページに高齢者支援バスがあるが、相応の費用を払ってこそ利用する価値があり、高齢者は出費を覚悟するべきである。
- ・老人クラブでもあり方検討会の内容を説明するつもりである。

《会長》

- ・資料は公開されるので、本あり方が公開された際は老人クラブ等でお話いただければと思う。

《委員》

- ・バス停が分からないという初歩の話を汲んでいただきお礼申し上げる。
- ・子育て世代は自家用車の移動が便利で使用しているのが現状である。
- ・将来的には免許返納するであろうし、自動車を取り巻く環境の変化も分かっているので、この先どうなっていくのかは子育て世代にも不安がある。そういう意味では、高齢者の方や、免許返納者への何かしらの取り組みや対応を見ていけば、高齢者になったときに利用できる等、子育て世代にも将来への一定の安心感がある気がする。

《会長》

- ・車で移動する子育て世代も10年、20年、30年後は変わってくるので、その時に公共交通が担保されていれば住民の安心感があり、シティーセールスにもつながると思う。加齢していくことへの安心感が担保されているということは重要であるという指摘であったと思う。
- ・バス停が分からないという率直な意見は非常に重要である。

《委員》

- ・貴重な機会に参加させていただきお礼申し上げる。
- ・委員の皆さまのお住いの身近なところからのご指摘、ご意見だけでなく、大局的

な大きな視点からのご意見を言っており、それを事務局が上手に資料の提言に盛り込んでいて勉強になった。

《会長》

(47ページの技術進展について)

・今は移動に不満は少ないが、10年後は不満が増えるかもしれない。公共交通へのニーズが増える可能性がある一方で、自動運転がどこまで進展するかわからない。最初自動運転の車両は非常に高価といわれているが、昔T型フォードが出たとき、大変高価であったが、大量生産で安価になりモータリゼーションが普及したときと同じように、技術が進展して、大量生産で安価になり、すべての車に自動運転がついて、いつでも行きたいところに連れて行ってくれるレベル5になれば、公共交通ではなくても良いのではないかという議論も出てくるかもしれない。しかし、東村山市の残念なところで道路基盤が非常に厳しい。すべての道路ができたとしても、人口に対してなかなか厳しい状況であることは否めず、全員が自動運転を使ったらとんでもないことになる。そのため公共交通を考え続けなければならない。もしかしたら技術進展して自動運転で交通の課題を解決できるかもしれない。一方で、その結果道路容量以上の自動車利用となり渋滞が発生して、駅まで1時間位かかってしまうかもしれない。やはり、公共交通をシェアして使うことになるのが重要になってくると思う。

技術の進展でMaaSは使えるかもしれないが、東村山市の道路基盤を認識したうえで、公共交通を今から市民の皆様と育てていく必要があり、今の課題は直近の課題であるが、この計画は将来も使えると思うので、公共交通を育成していくことを今から検討していただきたいと思っている。

《会長》

・施設と交通のあり方は常に考えてほしいという意見であった。
「施設立地を考えるとときに交通を考えての施設立地を合わせて検討する」というような内容の文を資料に追加するのはいかがであるか。

《委員》

・賛成である。
・市の施設で「八国山たいけんの里」があるが、この施設に行くには近くにバスが走っていないので自転車もしくはタクシーで行くしかない。
・たいけんの里の周辺は真っ直ぐな道路がなく、道路が狭く大きな車両が通るのは難しい場所にある。多くの人に行ってもらいたいし、展示物も観て、体験いただきたいが、小さな子どもは一人ではなかなか行けない等、現実には人が行けず、利用状況は残念な状況である。
・今すぐではないが、施設を作るときには、人が行かれるような立地を考えるべきである。

《会長》

・今後施設の統廃合になった時にも、物理的な距離では遠くなるが、サービスが担保されている事は必須条件になってくる。
・「施設立地と交通のことを考える」の一文を必ず入れていただきたい。文については事務局で考えていただいて、わたくしのほうで最終確認をしたい。

《会長》

- ・今日はまとめである。提言をもとに、令和4年度以降から具体的な検討を行う。
- ・アンケート調査で、今のところは満足度が高いということが分かった。今後、時が変化する中で不満度が上がってくる。不満度が上がらないために、施設立地を含めて今から準備をしておくことが非常に重要であると思う。
- ・人口減少が激しい地域は、そもそも移動手段がない、外に出られない、どうしてくれるんだという問題はあるが、東村山市はまだそこまでいっていない。そうならない予防的に防ぐために、今から検討しているということが非常に重要である。
- ・あり方検討会はあり方を示す場である。具体的な内容は地域公共交通会議で議論をする。
- ・多摩地域は他の市との連担はしている。他の市の駅に行くのは日常である。今後、東京都が広域的な公共交通の連携があるので、それを活用いただきながら、多摩地域が良くなるように引き続き検討していただければと思う。
- ・現実を踏まえると同時に、10年後苦勞するのではなく今から対応して10年後苦勞しないように準備いただければと思う。
- ・概ねの方向については、以上の通りとなり、細かい文言の修正については、会長に一任いただければと思うが、よろしいか。

《委員》

異議なし

《会長》

- ・続きまして、「報告」である。事務局、何かあるか。

3. 報告

《事務局》

- ・報告として1点「今後の新たな移動手段の検討について」ご説明させていただく。
- ・令和4年3月議会の施政方針説明でもご説明した通り、あり方検討会では、今回策定いただいたニーズ分析等を踏まえた運行方針をまとめることとし、具体的な手段や運行方式等については、令和4年度に検討を行うようスケジュールを変更したいと考えている。
- ・この変更に伴い、実験運行の実施についても後ろ倒しとなる予定である。まずは、令和4年度に、具体的な運行内容について地域公共交通会議で協議を行っていく予定となっているので、委員の皆さまもご承知おきいただきたく、ご報告する。

《会長》

- ・以上で、本日の議題は全て終了した。これをもって、令和3年度第4回東村山市地域公共交通あり方検討会を閉会する。

4. 閉会